

ご挨拶

「リレー・フォー・ライフ・ジャパン2025さいたま」の開催にあたり、大会会長としてご挨拶申し上げます。1985年、米国ワシントン州において、一人のアメリカ人医師が「がん患者は24時間、がんと向き合っている」という思いを胸に、トラックを24時間走り続けて寄付を募り、がん患者支援に役立てたことが、リレー・フォー・ライフの始まりです。この活動は現在、世界約36か国、約1,800か所で開催されており、日本でも今年は51か所での開催が予定されています。

「リレー・フォー・ライフ・ジャパンさいたま」は昨年度、5年ぶりに夜越えのイベントとして開催され、新型コロナウイルスの影響による継続の困難を乗り越え、活動の輪を途切れさせることなく、皆様と共にその日を迎えることができました。今年もこうして皆様と集えることを、心より嬉しく思います。

我が国では、国民の2人に1人が生涯のうちにがんに罹患すると言われる一方で、5年相対生存率は上昇傾向にあり、治療と社会生活を両立される方も増えています。こうした中、地域全体でがんと向き合うリレー・フォー・ライフの活動は、非常に意義深いものと考えております。

本市では、昨年3月に「第2次さいたま市がん対策推進計画」を策定いたしました。この計画は、市民一人ひとりががんに関する正しい知識を持ち、予防や早期発見に努めるとともに、がんになっても自分らしさと尊厳を持って生き方を主体的に選択できるよう、市民・事業者・保健医療関係者・市がそれぞれの役割を果たし、一体となってがん対策を推進するものです。今後も、本計画に基づき正しい知識の普及やがん検診の受診率向上など、さいたま市長 清水 勇人がん対策に取り組んでまいります。

結びに、「迷わせない・困らせない・ひとりにさせない」をキャッチフレーズとする、本チャリティイベントからがん患者支援の輪がさらに広がり、誰一人取り残されることなく、がんになっても安心して暮らせる地域社会の実現につながることを、心より願っております。



大会会長

日頃より、リレー・フォー・ライフ・ジャパン（RFLJ）さいたまの活動に、温かいご理解とご協力を賜り、心より感謝申し上げます。

RFLJさいたまは、今年で活動17周年を迎えることができました。そして、この記念すべき大会は、6年ぶりに24時間の夜通し開催をいたします。今年も、「迷わせない・困らせない・ひとりにさせない」という、がん患者さんとそのご家族に寄り添う大切なスローガンを胸に、One Teamさいたまとして準備を進めてまいりました。

がんは進行する一方で、医療は日々進化しています。私たちRFLJさいたまの活動もまた、今年新たに迎えた参加チームと共に、One Teamさいたまとして進化しています。RFLJさいたまの聖地「緑の広場」に集う今日この日に、私たちは、今を生きる祝福の笑顔を分かち合い、愛する人を偲ぶ涙を隠すことなく、がんに立ち向かう強い想いを共有できることを願っています。

これからもRFLJさいたまは、地域に開かれたリレーイベントの開催と、通年の募金・啓発活動（なごみサロン／ピアサポート）という両輪で、活動を続けてまいります。

実行委員一同、心を一つにして活動に取り組んでまいりますので、皆様のご理解と、より一層のご支援・お力添えを賜りますよう、心よりお願い申し上げます。



実行委員長
大竹 秀幸

日本人の2人に1人が、生涯でがんになる時代

リレー・フォー・ライフの寄付は このように使われます

がん患者支援



リレーイベント

1年間のリレー・フォー・ライフ活動の締めくくりとしてウォークイベントを開催します。



がんの悩み相談

看護師・社会福祉士などによる、無料の電話相談です。がんに関することなら誰でもご利用いただけます。年末年始を除く毎日実施しています。



プロジェクト未来

がんの新しい治療法や新薬開発に向けた研究助成を寄付金で支えています。

がん征圧



若手医師育成のための奨学金

(マイ・オンコロジー・ドリーム奨励賞)

がんを深く学びたい若手医師が、海外の専門施設で研修するための費用の一部を寄付金で支えています。



がん検診率アップ

ポスターやパンフレットの作成など、がんについての知識の普及・啓発・がん検診の受診推進活動を実施しています。

リレー・フォー・ライフで寄せられた寄付金は、
公益財団法人日本対がん協会を通じて支援に充てられます

リレー・フォー・ライフとは Relay For Life

がん患者さんやそのご家族を支援し、地域全体でがんと向き合い、がん征圧を目指します。1年を通じて取り組むチャリティ活動です。

1985年、一人の医師がトラックを24時間走り続け、アメリカ対がん協会への寄付を募りました。「がん患者は24時間、がんと向き合っている」という想いを共有し支援するためでした。ともに歩き、語らうことで生きる勇気と希望を生み出したいというこの活動は、2024年現在世界約36か国で活動、約1800か所で開催され、年間寄付は全世界で146億円にのぼります。2025年、日本国内では51か所で開催が予定されています。

リレー・フォー・ライフの使命と3つのテーマ

Save Lives



リレーウォーク・ サバイバーズウォーク

参加者はチームを組み、サバイバー(がん患者・経験者)と共にタスキをつなぎ、チームフラッグを掲げ歩きます。



各種催し物

会場では音楽演奏や小さなお子さんも遊べる色々なお愉しみがたくさんあります。



各種キッチンカー (メニューの一例紹介)



啓発講演

がんの早期発見・治療や健康に関する情報などを楽しく学べる催しがあり、命の大切さを伝えます。